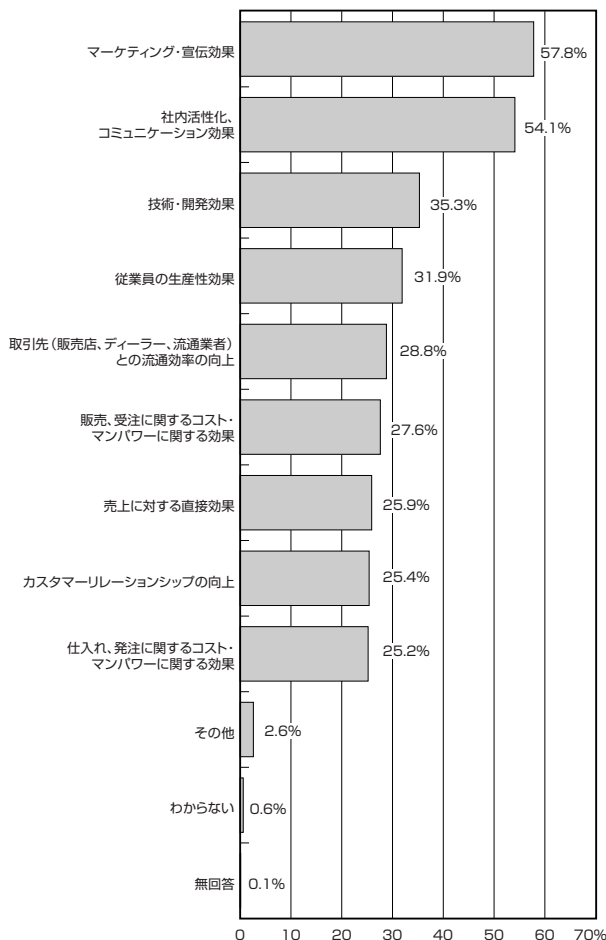


第4章 企業

期待効果/社内の利用内容

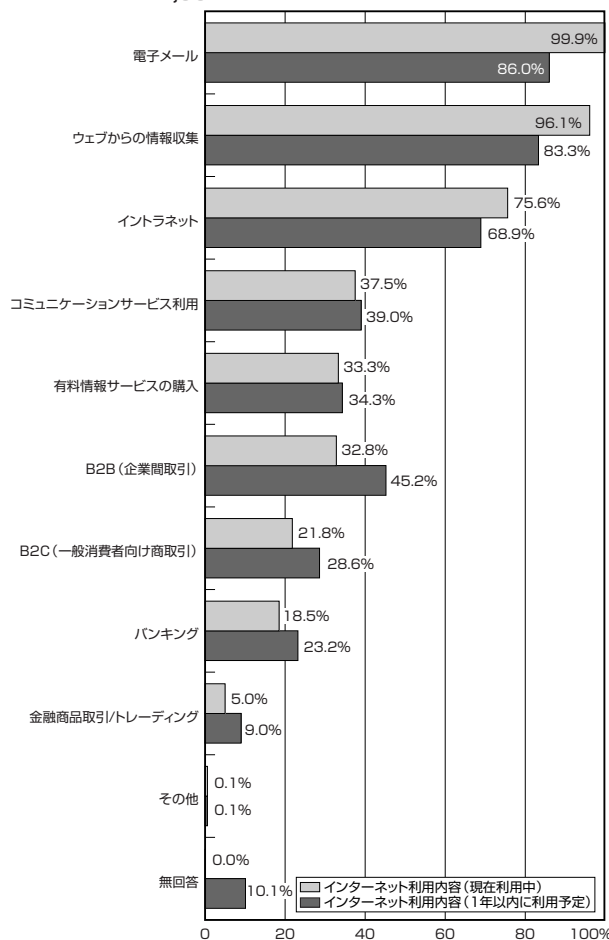
直接効果より間接的効果に期待

資料1-4-19 インターネットの利用で期待する効果 N=1,662



インターネット白書2001 ©インプレス、Access Media International,2001

資料1-4-20 インターネット利用内容(現在/今後1年以内の予定) N=1,662



インターネット白書2001 ©インプレス、Access Media International,2001

解説

■社内のインターネット利用内容

昨年はインターネットを導入することによって得られる効果について聞いたが、今年はさらに、インターネットを利用するにあたり、どのようなことを期待したかについて聞いている。

あとでみる、実際のインターネット導入効果の項目別平均点(P.109)と比較すると、期待どおりであったかどうかかわかる。

インターネットを導入したことによって企業がどのような効果を期待しているかについては「マーケティング・宣伝効果」

が最も高く、57.8%を占める。次いで「社内活性化、コミュニケーション効果」の54.1%で、上位を占めるのはホームページ開設による宣伝効果や電子メールによる社内通信といった、直接利益を生まない間接的効果に留まっている。

商売に直結する「売上に対する直接効果」や「仕入れ、発注に関するコスト・マンパワーに関する効果」「販売、受注に関するコスト・マンパワーに関する効果」といった項目は、相対的に期待が低いといえる。しかしこのことは企業が導入効果を過度に期待をせず、堅実にみる傾向

にあることを表しているともいえる。

「売上に対する直接効果」や「仕入れ、発注に関するコスト・マンパワーに関する効果」「販売、受注に関するコスト・マンパワーに関する効果」を期待している企業はそれぞれ25.9%、25.2%、27.6%あり、後述するB2C(一般消費者向け商取引)やB2B(企業間取引)への取り組み企業の比率とほぼ一致している。

企業内でのインターネット利用内容について聞いたところ、最も利用率が高いのは「電子メール」(99.9%)で、社内での利用はほぼ完全に行き渡ったといえる。続



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp